

## 聖書の概要

**人間の堕落** 創世記 3:1-19 人間が死にゆだねられる原点、イオウオ神が人間唯一の希望となる救いを備えられる

さてイオウオ神が造られた野の生き物のうちで、へびが最も狡猾であった。へびは女に言った、「園にあるどの木からも取って食べるなど、ほんとうに神が言われたのですか」。女はへびに言った、「わたしたちは園の木の実を食べることは許されていますが、ただ園の中央にある木の実については、これを取って食べるな、これに触れるな、死んではいけないからと、神は言われました」。へびは女に言った、「あなたがたは決して死ぬことはないでしょう。それを食べると、あなたがたの目が開け、神のように善悪を知る者となることを、神は知っておられるのです」。女がその木を見ると、それは食べるに良く、目には美しく、賢くなるには好ましいと思われたから、その実を取って食べ、また共にいた夫にも与えたので、彼も食べた。すると、ふたりの目が開け、自分たちの裸であることがわかったので、いちじくの葉をつづり合わせて、腰に巻いた。彼らは、日の涼しい風の吹くころ、園の中にイオウオ神の歩まれる音を聞いた。そこで、人とその妻とはイオウオ神の顔を避けて、園の木の間を身を隠した。イオウオ神は人に呼びかけて言われた、「あなたはどこにいるのか」。彼は答えた、「園の中であなたの歩まれる音を聞き、わたしは裸だったので、恐れて身を隠したのです」。神は言われた、「あなたが裸であることを、だれが知らせたのか。食べるなど、命じておいた木から、あなたは取って食べたのか」。人は答えた、「わたしと一緒にして下さったあの女が、木から取ってくれたので、わたしは食べたのです」。そこでイオウオ神は女に言われた、「あなたは、なんということをしたのです」。女は答えた、「へびがわたしをだましたのです。それでわたしは食べました」。イオウオ神はへびに言われた、「おまえは、この事を、したので、すべての家畜、野のすべての獣のうち、最ものろわれる。おまえは腹で、這いあるき、一生、ちりを食べるであろう。わたしは恨みをおく、おまえと女とのあいだに、おまえのすえと女のすえとの間に。彼はおまえのかしらを砕き、おまえは彼のかかとを砕くであろう」。つぎに女に言われた、「わたしはあなたの産みの苦しみを大いに増す。あなたは苦しんで子を産む。それでもなお、あなたは夫を慕い、彼はあなたを治めるであろう」。更に人に言われた、「あなたが妻の言葉を聞いて、食べるなど、わたしが命じた木から取って食べたので、地はあなたのためにのろわれ、あなたは一生、苦しんで地から食物を取る。地はあなたのために、いばらとあざみとを生じ、あなたは野の草を食べるであろう。あなたは顔に汗してパンを食べ、ついに土に帰る、あなたは土から取られたのだから。あなたは、ちりだから、ちりに帰る」。

**「イオウオ」と言う神の御名** 創世記 4:25,26 「イオウオ」と言う神の御名はイオウオの崇拜固有一部分になった

アダムはまたその妻を知った。彼女は男の子を産み、その名をセツ（＝セト＝「置換」）と名づけて言った、「カインがアベルを殺したので、神はアベルの代りに、ひとりの子をわたしに授けられました」。セツにもまた男の子が生まれた。彼はその名をエノスと名づけた。この時、人々はイオウオの名を呼び始めた。

**ノアの大洪水** 創世記 7:1-5 創世記 7:21-24 創世記 8:15-17 創世記 8:20-22 創世記 9:1,8-11,14

### やむを得ない刑罰

イオウオはノアに言われた、「あなたと家族とはみな箱舟にはいりなさい。あなたがこの時代の人々の中で、わたしの前に正しい人であるとわたしは認めたからである。あなたはすべての清い獣の中から雄と雌とを七つずつ取り、清くない獣の中から雄と雌とを二つずつ取り、また空の鳥の中から雄と雌とを七つずつ取って、その種類が全地のおもてに生き残るようにしなさい。七日の後、わたしは四十日四十夜、地に雨を降らせて、わたしの造ったすべての生き物を、地のおもてからぬぐい去ります」。ノアはすべてイオウオが命じられたようにした。

地の上に動くすべて肉なるものは、鳥も家畜も獣も、地に群がるすべての這うものも、すべての人もみな滅びた。すなわち鼻に命の息のあるすべてのもの、陸にいたすべてのものは死んだ。地のおもてにいたすべての生き物は、人も家畜も、這うものも、空の鳥もみな地からぬぐい去られて、ただノアと、彼と共に箱舟にいたものだけが残った。水は百五十日のあいだ地上にみなぎった。

## 聖書の概要

この時、神はノアに言われた、「あなたは妻と、子らと、子らの妻たちと共に箱舟を出なさい。あなたは、共にいる肉なるすべての生き物…を連れて出て…なさい」。

ノアはイオウオに祭壇を築いて、すべての清い獣と、すべての清い鳥とのうちから取って、燔祭を祭壇の上にささげた。イオウオはその香ばしいかおりをかいで、心に言われた、「わたしはもはや二度と人のゆえに地をのろわない。人が心に思い図ることは、幼い時から悪いからである。わたしは、このたびしたように、もう二度と、すべての生きたものを滅ぼさない。地のある限り、種まきの時も、刈入れの時も、暑さ寒さも、夏冬も、昼も夜もやむことはないであろう」。

神はノアとその子らとを祝福して彼らに言われた、「生めよ、ふえよ、地に満ちよ。…神はノアおよび共にいる子らに言われた、「わたしはあなたがた及びあなたがたの後の子孫と契約を立てる。またあなたがたと共にいるすべての生き物、あなたがたと共にいる鳥、家畜、地のすべての獣、すなわち、すべて箱舟から出たものは、地のすべての獣にいたるまで、わたしはそれと契約を立てよう。わたしがあなたがたと立てるこの契約により、すべて肉なる者は、もはや洪水によって滅ぼされることはなく、また地を滅ぼす洪水は、再び起らないであろう」。…わたしが雲を地の上に起すとき、にじは雲の中に現れる。

**ノアの大洪水後の族長** 創世記9:18,19と10:1 創世記10:8-12,21-32 創世記11:1-26  
*敵の存在に関わらずメシア(=油注がれた者、救い主)が来れるように、イオウオが崇拜者の系統を選ばられた*

箱舟から出たノア(=「落ち着き」)の子らはセム(=シエム=「名前」)、ハム(=ヘム=「暖かさ」)、ヤベテ(=イベト=「イオウオが開く」)であった。ハムはカナン之父である。この三人はノアの子らで、全地の民は彼らから出て、広がったのである。…ノアの子セム、ハム、ヤベテの系図は次のとおりである。洪水の後、彼らに子が生れた。

クシの子はニムロデ(=「ヒョウ」)であって、このニムロデは世の権力者となった最初の人である。彼はイオウオの前に力ある狩猟者「=「追跡者」)であった。これから「イオウオの前に力ある狩猟者ニムロデのごとし」ということわざが起った。彼の国は最初シナルの地にあるバベル…を建てた。…セムにも子が生れた。セムはエベル(ヘブライ人と比較せよ)のすべての子孫の先祖であって、ヤベテの兄であった。セムの子孫はエラム、アシュル、アルパクサデ、ルデ、アラムであった。アラムの子孫はウツ(ウツの地のヨブと比較せよ)、ホル、ゲテル、マシであった。アルパクサデの子はシラ、シラの子はエベルである。エベルにふたりの子が生れた。そのひとりの名をペレグ(=「分割」といった。これは彼の代に地の民が分れたからである(新共同訳：土地が分けられた⇒大陸漂移と比較せよ)。その弟の名をヨクタンといった。ヨクタンにアルモダデ、シャレフ、ハザルマウテ、エラ、ハドラム、ウザル、デクラ、オバル、アビマエル、シバ、オフル、ハビラ、ヨバブが生れた。これらは皆ヨクタンの子であった。彼らが住んだ所はメシャから東の山地セバルに及んだ。これらはセムの子孫であって、その氏族とその言語とにしたがって、その土地と、その国々にいた。これらはノアの子らの氏族であって、血統にしたがって国々に住んでいたが、洪水の後、これらから地上の諸国民が分れたのである。

全地は同じ発音、同じ言葉であった。時に人々は東に移り、シナルの地に平野を得て、そこに住んだ。彼らは互に言った、「さあ、れんがを造って、よく焼こう」。こうして彼らは石の代りに、れんがを得、しっくい代りに、アスファルトを得た。彼らはまた言った、「さあ、町と塔とを建てて、その頂を天に届かせよう。そしてわれわれは名を上げて(注釈：イオウオ神の御名が足りなかった)、全地のおもてに散るのを免れよう」。時にイオウオは下って、人の子たちの建てる町と塔とを見て、イオウオは言われた、「民は一つで、みな同じ言葉である。彼らはすでにこの事をしはじめた。彼らがしようとする事は、もはや何事もとどめ得ないであろう。さあ、われわれは下って行って、そこで彼らの言葉を乱し、互に言葉が通じないようにしよう」。こうしてイオウオが彼らをそこから全地のおもてに散らされたので、彼らは町を建てるのをやめた。これによってその町の名はバベル(=「混乱」と呼ばれた。イオウオがそこで全地の言葉を乱されたからである。イオウオはそこから彼らを全地のおもてに散らされた。

## 聖書の概要

セムの系図は次のとおりである。セムは百歳になって洪水の二年の後にアルパクサデを生んだ。セムはアルパクサデを生んで後、五百年生きて、男子と女子を生んだ。…（ナホルまでの系図を省略した）…ナホルはテラを生んで後、百十九年生きて、男子と女子を生んだ。テラは七十歳になってアブラム（＝「偉い父」、アブラム元の名前；アブラム＝「大勢の父」、ナホルおよびハランを生んだ。

**アブラムの家族** 創世記12:1-9 創世記12:10と13:1-4 創世記15:1-6,18 創世記17:1-5 創世記18:13-15  
創世記21:1-7 創世記 22:1-18 創世記25:11-28 創世記32:23-30  
メシアのために、イオウオが家族を選ばれ、それを民族に形成された

時にイオウオはアブラムに言われた、「あなたは国を出て、親族に別れ、父の家を離れ、わたしが示す地に行きなさい。わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大きくしよう。あなたは祝福の基となるであろう。あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地のすべてのやからは、あなたによって祝福される」。アブラムはイオウオが言われたようにいで立った。ロトも彼と共にいった。アブラムはハランを出たとき七十五歳であった。アブラムは妻サラと、弟の子ロトと、集めたすべての財産と、ハランで獲た人々を携えてカナンに行こうとしていで立ち、カナンの地に来た。アブラムはその地を通ってシケムの所、モレのテレビンの木のもとに着いた。そのころカナンびとがその地にいた。時にイオウオはアブラムに現れて言われた、「わたしはあなたの子孫にこの地を与えます」。アブラムは彼に現れたイオウオのために、そこに祭壇を築いた。彼はそこからベテルの東の山に移って天幕を張った。西にはベテル、東にはアイがあった。そこに彼はイオウオのために祭壇を築いて、イオウオの名を呼んだ。アブラムはなお進んでネゲブに移った。

さて、その地にききんがあったのでアブラムはエジプトに寄留しようと、そこに下った。ききんがその地に激しかったからである。…アブラムは妻とすべての持ち物を携え、エジプトを出て、ネゲブに上った。ロトも彼と共に上った。アブラムは家畜と金銀に非常に富んでいた。彼はネゲブから旅路を進めてベテルに向かい、ベテルとアイの間の、さきに天幕を張った所に行った。すなわち彼が初めに築いた祭壇の所に行き、その所でアブラムはイオウオの名を呼んだ。

これらの事後、イオウオの言葉が幻のうちにアブラムに臨んだ、「アブラムよ恐れてはならない、わたしはあなたの盾である。あなたの受ける報いは、はなはだ大きいであろう」。アブラムは言った、「主イオウオよ、わたしには子がなく、わたしの家を継ぐ者はダマスコのエリエゼルであるのに、あなたはわたしに何をくださろうとするのですか」。アブラムはまた言った、「あなたはわたしに子を賜わないので、わたしの家に生れたしもべが、あとつぎとなるでしょう」。この時、イオウオの言葉が彼に臨んだ、「この者はあなたのあとつぎとなるべきではありません。あなたの身から出る者があとつぎとなるべきです」。そして主は彼を外に連れ出して言われた、「天を仰いで、星を数えることができるなら、数えてみなさい」。また彼に言われた、「あなたの子孫はあのようなになるでしょう」。アブラムは主を信じた。主はこれを彼の義と認められた。…その日、主はアブラムと契約を結んで言われた、「わたしはこの地をあなたの子孫に与える。エジプトの川から、かの大川ユフラテまで。

アブラムの九十九歳の時、イオウオはアブラムに現れて言われた、「わたしは全能の神である。あなたはわたしの前に歩み、全き者であれ。わたしはあなたと契約を結び、大いにあなたの子孫を増すであろう」。アブラムは、ひれ伏した。神はまた彼に言われた、「わたしはあなたと契約を結ぶ。あなたは多くの国民の父となるであろう。あなたの名は、もはやアブラムとは言われず、あなたの名はアブラムと呼ばれるであろう。わたしはあなたを多くの国民の父とするからである。

イオウオはアブラムに言われた、「なぜサラは、わたしは老人であるのに、どうして子を産むことができようかと言って笑ったのか。イオウオにとって不可能なことがありますか。来年の春、定めの際に、わたしはあなたの所に帰ってきます。そのときサラには男の子が生れているでしょう」。サラは恐れたので、これを打ち消して言った、「わたしは笑いません」。主は言われた、「いや、あなたは笑いました」。

## 聖書の概要

イオウオは、さきに言われたようにサラを顧み、イオウオは告げられたようにサラに行われた。サラはみごもり、神がアブラハムに告げられた時になって、年老いたアブラハムに男の子を産んだ。アブラハムは生れた子、サラが産んだ男の子の名をイサクと名づけた。アブラハムは神が命じられたように八日目にその子イサクに割礼を施した。アブラハムはその子イサクが生れた時百歳であった。そしてサラは言った、「神はわたしを笑わせてくださった。聞く者は皆わたしのことで笑うでしょう」。また言った、「サラが子に乳を飲ませるだろうと、だれがアブラハムに言い得たであろう。それなのに、わたしは彼が年とってから、子を産んだ」。

これらの事の後、神はアブラハムを試みて彼に言われた、「アブラハムよ」。彼は言った、「ここにおります」。神は言われた、「あなたの子、あなたの愛するひとり子イサクを連れてモリヤの地に行き、わたしが示す山で彼を燔祭としてささげなさい」。アブラハムは朝はやく起きて、ろばにくらを置き、ふたりの若者と、その子イサクとを連れ、また燔祭のたきぎを割り、立って神が示された所に出かけた。三日目に、アブラハムは目をあげて、はるかにその場所を見た。そこでアブラハムは若者たちに言った、「あなたがたは、ろばと一緒にここにいなさい。わたしとわらべは向こうへ行って礼拝し、そののち、あなたがたの所に帰ってきます」。アブラハムは燔祭のたきぎを取って、その子イサクに負わせ、手に火と刃物を執って、ふたり一緒に行った。やがてイサクは父アブラハムに言った、「父よ」。彼は答えた、「子よ、わたしはここにあります」。イサクは言った、「火とたきぎとはありますが、燔祭の小羊はどこにありますか」。アブラハムは言った、「子よ、神みずから燔祭の小羊を備えてくださるであろう」。こうしてふたりは一緒に行った。彼らが神の示された場所に来たとき、アブラハムはそこに祭壇を築き、たきぎを並べ、その子イサクを縛って祭壇のたきぎの上に載せた。そしてアブラハムが手を差し伸べ、刃物を執ってその子を殺そうとした時、イオウオの使が天から彼を呼んで言った、「アブラハムよ、アブラハムよ」。彼は答えた、「はい、ここにおります」。み使が言った、「わらべを手にかけてはならない。また何も彼にしてはならない。あなたの子、あなたのひとり子をさえ、わたしのために惜しまないので、あなたが神を恐れる者であることをわたしは今知った」。この時アブラハムが目をあげて見ると、うしろに、角をやぶに掛けている一頭の雄羊がいた。アブラハムは行ってその雄羊を捕え、それをその子のかわりに燔祭としてささげた。それでアブラハムはその所の名をイオウオ・エシと呼んだ。これにより、人々は今日もなお「イオウオの山に備えあり」と言う。イオウオの使は再び天からアブラハムを呼んで、言った、「イオウオは言われた、『わたしは自分をさして誓う。あなたがこの事をし、あなたの子、あなたのひとり子をも惜しまなかったので、わたしは大いにあなたを祝福し、大いにあなたの子孫をふやして、天の星のように、浜べの砂のようにする。あなたの子孫は敵の門を打ち取り、また地のもろもろの国民はあなたの子孫によって祝福を得るであろう。あなたがわたしの言葉に従ったからである』」。

アブラハムの子イサクの系図は次のとおりである。アブラハムの子はイサクであって、イサクは四十歳の時、パダンアラムのアラムびとベトエルの娘で、アラムびとラバンの妹リベカを妻にめとった。イサクは妻が子を産まなかつたので、妻のためにイオウオに祈り願った。イオウオはその願いを聞かれ、妻リベカはみごもった。ところがその子らが胎内で押し合ったので、リベカは言った、「こんなことでは、わたしはどうなるでしょう」。彼女は行ってイオウオに尋ねた。イオウオは彼女に言われた、「二つの国民があなたの胎内にあり、二つの民があなたの腹から別れて出る。一つの民は他の民よりも強く、兄は弟に仕えるであろう」。彼女の出産の日がきたとき、胎内にはふたごがあった。さきに出たのは赤くて全身毛ごろもようであった。それで名をエサウと名づけた。その後、弟が出た。その手はエサウのかかとをつかんでいた。それで名をヤコブと名づけた。リベカが彼らを産んだ時、イサクは六十歳であった。さてその子らは成長し、エサウは巧みな狩猟者となり、野の人となったが、ヤコブは穏やかな人で、天幕に住んでいた。イサクは、しかの肉が好きだったので、エサウを愛したが、リベカはヤコブを愛した。

すなわち彼らを導いて川を渡らせ、また彼の持ち物を渡らせた。ヤコブはひとりあとに残ったが、ひとりの人が、夜明けまで彼と組打ちした。ところでその人はヤコブに勝てないのを見て、ヤコブのものつがいにはさわつたので、ヤコブのものつがい、その人と組打ちするあいだにはずれた。その人は言った、「夜が明けるからわたしを去らせてください」。ヤコブは答えた、「わたしを祝福してくだらないなら、あなたを去らせません」。その人は彼に言った、「あなたの名はなんと言いますか」。彼は答えた、「ヤコブです」。その人は言った、「あなたはもはや名をヤコブと言わず、イスラエルと言いなさい。あなたが神と人との、力を争って勝ったからです」。ヤコブは尋ねて言った、「どうかわたしにあなたの名を知らせてください」。するとその人は、「なぜあなたはわたしの名をきくのですか」と言ったが、その所で彼を祝福した。そこでヤコブはその所の名をベニエルと名づけて言った、「わたしは顔と顔をあわせて神を見たが、なお生きている」。

## 聖書の概要

**イスラエル民族（後ほどユダヤ民族）** 出エジプト記 19:1-9 出エジプト記 20:1-24 出エジプト記 23:21 箴言 30:4  
*メシアのための民：イスラエル民族*

イスラエルの人々は、エジプトの地を出て後三月目のその日に、シナイの荒野にはいった。すなわち彼らはレピデムを出立してシナイの荒野に入り、荒野に宿営した。イスラエルはその所で山の前に宿営した。さて、モーセが神のもとに登ると、イオウオは山から彼を呼んで言われた、「このように、ヤコブの家に言い、イスラエルの人々に告げなさい、『あなたがたは、わたしがエジプトびとにした事と、あなたがたを鷲の翼に載せてわたしの所にこさせたことを見た。それで、もしあなたがたが、まことにわたしの声に聞き従い、わたしの契約を守るならば、あなたがたはすべての民にまさって、わたしの宝となるであろう。全地はわたしの所有だからである。あなたがたはわたしに対して祭司の国となり、また聖なる民となるであろう』。これがあなたのイスラエルの人々に語るべき言葉である」。それでモーセは行って民の長老たちを呼び、イオウオが命じられたこれらの言葉を、すべてその前に述べたので、民はみな共に答えて言った、「われわれはイオウオが言われたことを、みな行います」。モーセは民の言葉をイオウオに告げた。イオウオはモーセに言われた、「見よ、わたしは濃い雲のうちにあって、あなたに臨むであろう。それはわたしがあなたと語るのを民に聞かせて、彼らに長くあなたを信じさせるためである」。モーセは民の言葉をイオウオに告げた。

神はこのすべての言葉を語って言われた。「わたしはあなたの神、イオウオであって、あなたをエジプトの地、奴隷の家から導き出した者である。あなたはわたしのほかに、なにものをも神としてはならない。あなたは自分のために、刻んだ像を造ってはならない。上は天にあるもの、下は地にあるもの、また地の下の水のなかにあるものの、どんな形をも造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。あなたの神、イオウオであるわたしは、ねたむ神であるから、わたしを憎むものは、父の罪を子に報いて、三四代に及ぼし、わたしを愛し、わたしの戒めを守るものには、恵みを施して、千代に至るであろう。あなたは、あなたの神、イオウオの名を、みだりに唱えてはならない。イオウオは、み名をみだりに唱えるものを、罰しないでは置かないであろう。安息日を覚えて、これを聖とせよ。六日のあいだ働いてあなたのすべてのわざをせよ。七日目はあなたの神、イオウオの安息であるから、なんのわざをもしてはならない。あなたもあなたのむすこ、娘、しもべ、はしため、家畜、またあなたの門のうちにいる他国の人もそうである。イオウオは六日のうちに、天と地と海と、その中のすべてのものを造って、七日目に休まれたからである。それでイオウオは安息日を祝福して聖とされた。あなたの父と母を敬え。これは、あなたの神、イオウオが賜わる地で、あなたが長く生きるためである。あなたは殺してはならない。あなたは姦淫してはならない。あなたは盗んではならない。あなたは隣人について、偽証してはならない。あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、しもべ、はしため、牛、ろば、またすべて隣人のものをむさぼってはならない」。民は皆、かみなりと、いなずまと、ラッパの音と、山の煙っているのを見た。民は恐れおののき、遠く離れて立った。彼らはモーセに言った、「あなたがわたしたちに語ってください。わたしたちは聞き従います。神がわたしたちに語られぬようにしてください。それでなければ、わたしたちは死ぬでしょう」。モーセは民に言った、「恐れてはならない。神はあなたがたを試みるため、またその恐れをあなたがたの目の前において、あなたがたが罪を犯さないようにするために臨まれたのである」。そこで、民は遠く離れて立ったが、モーセは神のおられる濃い雲に近づいて行った。イオウオはモーセに言われた、「あなたはイスラエルの人々にこう言いなさい、『あなたがたは、わたしが天からあなたがたと語るのを見た。あなたがたはわたしと並べて、何をも造ってはならない。銀の神々も、金の神々も、あなたがたのために、造ってはならない。あなたはわたしのために土の祭壇を築き、その上にあなたの燔祭、酬恩祭、羊、牛をささげなければならない。わたしの名を覚えさせるすべての所で、わたしはあなたに臨んで、あなたを祝福するであろう。

あなたは偽りのうわさを言いふらしてはならない。あなたは悪人と手を携えて、悪意のある証人になってはならない。

天にのぼったり、下ったりしたのはだれか、風をこぶしの中に集めたのはだれか、水を着物に包んだのはだれか、地のすべての限界を定めた者はだれか、その名は何か、その子の名は何か、あなたは確かにそれを知っている。

**イエスの使徒の民** エレミヤ書31:31 マタイ4:17とヨハネ12:44-48 ヘブライ9:13-18 *メシア・イエスによるの救いが実現できた事を全世界で述べ伝える民はこの世の中から選ばれたが、まだ世界改宗のためはない*

イオウオは言われる、見よ、わたしがイスラエルの家とユダの家とに新しい契約を立てる日が来る。

## 聖書の概要

この時からイエスは教を宣べはじめて言われた、「悔い改めよ、天国は近づいた」。…イエスは大声で言われた、「わたしを信じる者は、わたしを信じるのではなく、わたしをつかわされたかたを信じるのであり、また、わたしを見る者は、わたしをつかわされたかたを見るのである。わたしは光としてこの世にきた。それは、わたしを信じる者が、やみのうちにとどまらないようになるためである。たとい、わたしの言うことを聞いてそれを守らない人があっても、わたしはその人をさばかない。わたしがきたのは、この世をさばくためではなく、この世を救うためである。わたしを捨てて、わたしの言葉を受けいれない人には、その人をさばくものがある。わたしの語ったその言葉が、終りの日にその人をさばくであろう。

もし、やぎや雄牛の血や雌牛の灰が、汚れた人たちの上にまきかけられて、肉体をきよめ聖別するとすれば、永遠の聖霊によって、ご自身を傷なき者として神にささげられたキリストの血は、なおさら、わたしたちの良心をきよめて死んだわざを取り除き、生ける神に仕える者としなでであろうか。それだから、キリストは新しい契約の仲保者なのである。それは、彼が初めの契約のもとで犯した罪過があがなうために死なれた結果、召された者たちが、約束された永遠の国を受け継ぐためにほかならない。いったい、遺言には、遺言者の死の証明が必要である。遺言は死によってのみその効力を生じ、遺言者が生きている間は、効力がない。だから、初めの契約も、血を流すことなしに成立したのではない。

**終わりの日とハルマゲドン** ゼカリヤ書14:9 ゼパニヤ書3:9,10 ゼカリヤ書13:8,9 イザヤ書2:2-5 ハバクク書2:2-4と3:2-13 ミカ書4:5 マラキ書3:16-4:3(=3:16-21) ヨブ記34:14,15 マタイ6:9,10 マタイ24:1-14 マタイ25:31-46 黙示録16:16 *世界改宗への過度は旧世界の終わりである*

イオウオは全地の王となられる。その日には、イオウオひとり、その名一つのみとなる。

その時わたしはもろもろの民に清きちびるを与え、すべて彼らにイオウオの名を呼ばせ、心を一つにして主に仕えさせる。わたしを拝む者、わたしが散らした者の娘はエチオピアの川々の向こうから来て、わたしに供え物をささげる。

イオウオは言われる、全地の人（新共同訳：この地；地＝土地、ヘブライ語：アレツ）の三分の二は断たれて死に、三分の一は生き残る。わたしはこの三分の一を火の中に入れ、銀をふき分けるように、これをふき分け、金を精錬するように、これを精錬する。彼らはわたしの名を呼び、わたしは彼らに答える。わたしは『彼らはわが民である』と言い、彼らは『イオウオはわが神である』と言う。

終りの日に次のことが起る。イオウオの家の山は、もろもろの山のかしらとして堅く立ち、もろもろの峰よりも高くそびえ、すべて国はこれに流れてき、多くの民は来て言う、「さあ、われわれはイオウオの山に登り、ヤコブの神の家へ行こう。彼はその道をわれわれに教えられ、われわれはその道に歩もう」と。律法はシオンから出、イオウオの言葉はエルサレムから出るからである。彼はもろもろの国のあいだにさばきを行い、多くの民のために仲裁に立たれる。こうして彼らはそのつぎを打ちかえて、すきとし、そのやりを打ちかえて、かまとし、国は国にむかって、つるぎをあげず、彼らはもはや戦いのことを学ばない。ヤコブの家よ、さあ、われわれはイオウオの光に歩もう。

イオウオはわたしに答えて言われた、「この幻を書き、これを板の上に明らかにし、走りながらも、これを読みうるようにせよ。この幻はなお定められたときを待ち、終りをさして急いでいる。それは偽りではない。もしおそれれば待っておれ。それは必ず臨む。滞りはしない。見よ、その魂の正しくない者は衰える。しかし義人はその信仰によって生きる。…イオウオよ、わたしはあなたのことを聞きました。イオウオよ、わたしはあなたのみわざを見て恐れます。この年のうちにこれを新たにし、この年のうちにこれを知らせてください。怒る時にもあわれみを思いおこしてください。神はテマンからこられ、聖者はパランの山からこられた。その栄光は天をおおい、そのさんびは地に満ちた。〔セラ（＝「ポーズ」）その輝きは光のようであり、その光は彼の手からほとばしる。かしこにその力を隠す。疫病はその前に行き、熱病はその後に従う。彼は立って、地をはかり、彼は見て、諸国民をおののかせられる。とこしえの山は散らされ、永遠の丘は沈む。彼の道は昔のとおりである。わたしが見ると、クシャンの天幕に悩みがあり、ミデアンの国の幕は震う。イオウオよ、あなたが馬に乗

## 聖書の概要

り、勝利の戦車に乗られる時、あなたは川に向かって怒られるのか。川に向かって憤られるのか。あるいは海に向かって立腹されるのか。あなたの弓は取り出された。矢は、弦につがえられた。〔セウ あなたは川をもって地を裂かれた。山々はあなたを見て震い、荒れ狂う水は流れいで、淵は声を出して、その手を高くあげた。飛び行くあなたの矢の光のために、電光のようにきらめく、あなたのやりのために、日も月もそのすみかに立ち止まった。あなたは憤って地を行きめぐり、怒って諸国民を踏みつけられた。あなたはあなたの民を救うため、あなたの油そそいだ者を救うために出て行かれた。あなたは悪しき者の頭を砕き、彼を腰から首まで裸にされた。〕セウ

すべての民はおのおのその神の名によって歩む。しかしわれわれはわれわれの神、イオウオの名によって、とこしえに歩む。

そのとき、イオウオを恐れる者は互に語った。イオウオは耳を傾けてこれを聞かれた。そしてイオウオを恐れる者、およびその名を心に留めている者のために、主の前に一つの覚え書がしるされた。〔万軍のイオウオは言われる、彼らはわたしが手を下して事を行う日に、わたしの者となり、わたしの宝となる。また人が自分に仕える子をあわれむように、わたしは彼らをあわれむ。その時あなたがたは、再び義人と悪人、神に仕える者と、仕えない者との区別を知るようになる。万軍のイオウオは言われる、見よ、炉のように燃える日が来る。その時すべて高ぶる者と、悪を行う者とは、わらようになる。その来る日は、彼らを焼き尽して、根も枝も残さない。しかしわが名を恐れるあなたがたには、義の太陽がのぼり、その翼には、いやす力を備えている。あなたがたは牛舎から出る子牛のように外に出て、とびはねる。また、あなたがたは悪人を踏みつけ、わたしが事を行う日に、彼らはあなたがたの足の裏の下にあって、灰のようになると、万軍の主は言われる。〕

神がもしその霊をご自分に取りもどし、その息をご自分に取りあつめられるならば、すべての肉は共に滅び、人はちりに帰るであろう。

だから、あなたがたはこう祈りなさい、天にいますわれらの父よ、御名があがめられますように。御国がきますように。みこころが天に行われるとおり、地にも行われますように。

イエスが宮から出て行こうとしておられると、弟子たちは近寄ってきて、宮の建物にイエスの注意を促した。そこでイエスは彼らにむかって言われた、「あなたがたは、これらすべてのものを見ないか。よく言うておく。その石一つでもくずされずに、そこに他の石の上に残ることもなくなるであろう。またオリブ山ですわっておられると、弟子たちが、ひそかにみもとにきて言った、「どうぞお話しください。いつ、そんなことが起るのでしょうか。あなたがたまたおいでになる時や、世の終りには、どんな前兆がありますか」。そこでイエスは答えて言われた、「人に惑わされないように気をつけなさい。多くの者がわたしの名を名のって現れ、自分がキリストだと言って、多くの人を惑わすであろう。また、戦争と戦争のうわさを聞くであろう。注意していなさい、あわててはいけなさい。それは起らねばならないが、まだ終りではない。民は民に、国は国に敵対して立ち上がるであろう。またあちこちに、ききんが起り、また地震があるであろう。しかし、すべてこれらは産みの苦しみの初めである。そのとき人々は、あなたがたを苦しみにあわせ、また殺すであろう。またあなたがたは、わたしの名のゆえにすべての民に憎まれるであろう。そのとき、多くの人がつまずき、また互に裏切り、憎み合うであろう。また多くのにせ預言者が起って、多くの人を惑わすであろう。また不法がはびこるので、多くの人の愛が冷えるであろう。しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われる。そしてこの御国の福音は、すべての民に対してあかしをするために、全世界に宣べ伝えられるであろう。そしてそれから最後が来るのである。

人の子が栄光の中にすべての御使たちを従えて来るとき、彼はその栄光の座につくであろう。そして、すべての国民をその前に集めて、羊飼いが羊とやぎとを分けるように、彼らをより分け、羊を右に、やぎを左におくであろう。そのとき、王は右にいる人々に言うであろう、『わたしの父に祝福された人たちよ、さあ、世の初めからあなたがたのために用意されている御国を受けつぎなさい。あなたがたは、わたしが空腹のときに食べさせ、かわいていたときに飲ませ、旅人であったときに宿を貸し、裸であったときに着せ、病気のときに見舞い、獄にいたときに尋ねてくれたからである』。そのとき、正しい者たちは答えて言うであろう、『主よ、いつ、わたしたちは、あなたが空腹であるのを見て食物をめぐみ、かわいているのを見て飲ませましたか。いつあなたが旅人であるのを見て宿を貸し、裸なのを見て着せましたか。また、いつあなたが病気をし、獄にいるのを見て、あなたの所に参りましたか』。すると、王は答えて言うであろう、『あなたがたによく言うておく。わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである』。それから、左にいる人々にも言うであろう、『のろわれた者どもよ、わたしを離れて、悪魔とその使たちのために用意されている永遠の火にはいつてしまえ。あなたがたは、わたしが空腹のときに食べさせず、かわいていたときに飲ませず、旅人であったときに宿を貸さず、裸であったときに着せず、また病気のときや、獄にいたときに、わたしを尋ねてくれなかったからである』。そのとき、彼らもまた答えて言うであろう、

## 聖書の概要

『主よ、いつ、あなたが空腹であり、かわいておられ、旅人であり、裸であり、病気であり、獄におられたのを見て、わたしたちはお世話をしませんでしたか』。そのとき、彼は答えて言うであろう、『あなたがたによく言うておく。これらの最も小さい者のひとりにしなかったのは、すなわち、わたしにしなかったのである』。そして彼らは永遠の刑罰を受け、正しい者は永遠の生命に入るであろう』。

三つの霊は、ヘブル語でハルマゲドンという所に、王たちを召集した。

**天から治められるパラダイス** 黙示録20:1-15と21:1-5 イザヤ書11: 1-10と12:5 **新世界が天から治まれるパラダイスになり、そこで生きる人間は皆メシア・イエスによるの救いを認めている。世界改宗は完成した。**

またわたしが見ていると、ひとりの御使が、底知れぬ所のかぎと大きな鎖とを手に持って、天から降りてきた。彼は、悪魔でありサタンである龍、すなわち、かの年を経たへびを捕えて千年の間つなぎおき、そして、底知れぬ所に投げ込み、入口を閉じてその上に封印し、千年の期間が終るまで、諸国民を惑わすことがないようにしておいた。その後、しばらくの間だけ解放されることになっていた。また見ていると、かず多くの座があり、その上に人々がすわっていた。そして、彼らにさばきの権が与えられていた。また、イエスのあかしをし神の言を伝えただけのために首を切られた人々の霊がそこにおり、また、獣をもその像をも拝まず、その刻印を額や手に受けることをしなかった人々がいた。彼らは生きかえって、キリストと共に千年の間、支配した。(それ以外の死人は、千年の期間が終るまで生きかえらなかつた。)これが第一の復活である。この第一の復活にあずかる者は、さいわいな者であり、また聖なる者である。この人たちに対しては、第二の死はなんの力もない。彼らは神とキリストとの祭司となり、キリストと共に千年の間、支配する。千年の期間が終ると、サタンはその獄から解放される。そして、出て行き、地の四方にいる諸国民、すなわちゴグ、マゴグを惑わし、彼らを戦いのために召集する。その数は、海の砂のように多い。彼らは地上の広い所に上ってきて、聖徒たちの陣営と愛されていた都とを包囲した。すると、天から火が下ってきて、彼らを焼き尽した。そして、彼らを惑わした悪魔は、火と硫黄との池に投げ込まれた。そこには、獣にもせ預言者もいて、彼らは世々限りなく日夜、苦しめられるのである。また見ていると、大きな白い御座があり、そこにいますかたがあった。天も地も御座の前から逃げ去って、あとかたもなくなった。また、死んでいた者が、大いなる者も小さき者も共に、御座の前に立っているのが見えた。かずかずの書物が開かれたが、もう一つの書物が開かれた。これはいのちの書であった。死人はそのしわざに応じ、この書物に書かれていることにしたがって、さばかれた。海はその中にいる死人を出し、死も黄泉もその中にいる死人を出し、そして、おのおのそのしわざに応じて、さばきを受けた。それから、死も黄泉も火の池に投げ込まれた。この火の池が第二の死である。このいのちの書に名がしるされていない者はみな、火の池に投げ込まれた。…わたしはまた、新しい天と新しい地とを見た。先の天と地とは消え去り、海もなくなってしまった。また、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために着飾った花嫁のように用意をととのえて、神のもとを出て、天から下って来るのを見た。また、御座から大きな声が叫ぶのを聞いた、「見よ、神の幕屋が人と共にあり、神が人と共に住み、人は神の民となり、神自ら人と共にいまして、人の目から涙を全くぬぐいとして下さる。もはや、死もなく、悲しみも、叫びも、痛みもない。先ものが、すでに過ぎ去ったからである」。すると、御座にいますかたが言われた、「見よ、わたしはすべてのものを新たにする」。また言われた、「書きしるせ。これらの言葉は、信ずべきであり、まことである」。

エッセイの株から一つの芽が出、その根から一つの若枝が生えて実を結び、その上にイオウオの霊がとどまる。これは知恵と悟りの霊、深慮と才能の霊、主を知る知識とイオウオを恐れる霊である。彼はイオウオを恐れることを楽しみとし、その目の見るところによって、さばきをなさず、その耳の聞くところによって、定めをなさず、正義をもって貧しい者をさばき、公平をもって国のうちの柔和な者のために定めをなし、その口のむちをもって国を撃ち、そのくちびるの息をもって悪しき者を殺す。正義はその腰の帯となり、忠信はその身の帯となる。おおかみは小羊と共にやどり、ひょうは子やぎと共に伏し、子牛、若じし、肥えたる家畜は共にいて、小さいわらべに導かれ、雌牛と熊とは食い物を共にし、牛の子と熊の子と共に伏し、ししは牛のようにわらを食い、乳のみ子は毒蛇のほらに戯れ、乳離れの子は手をまむしの穴に入れる。彼らはわが聖なる山のどこにおいても、そこなうことなく、やぶることがない。水が海をおおっているように、イオウオを知る知識が地に満ちるからである。その日、エッセイの根が立って、もろもろの民の旗となり、もろもろの国びとはこれに尋ね求め、その置かれる所に栄光がある。…イオウオをほめうたえ。主はそのみわざを、みごとになし遂げられたから。これを全地に宣べ伝えよ。



## 聖書の概要

**御霊の「来たりませ」** 黙示録22:17と22:20,21 使徒行伝1:8 *新世界秩序での世界改宗のためには、「来たりませ」、すなわちイオウオへの「来たりませ」がイエスの死から新秩序がくるまでに徹底的に述べ伝えられ続ける事が重要な役割を果たしている*

御霊も花嫁も共に言った、「きたりませ」。また、聞く者も「きたりませ」と言いなさい。かわいている者はここに来るがよい。いのちの水がほしい者は、価なしにそれを受けるがよい。…これらのことをあかしするかが仰せになる、「しかり、わたしはすぐに来る」。アメン、主イエスよ、きたりませ。主イエスの恵みが、一同の者と共にあるように。

ただ、聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう」。

**「イオウオ」と言う神の御名の役割** エレミヤ書23:17,26,27 ヨエル書2:32(=3:5) 使徒行伝2:21 ローマ10:13 黙示録11:15-19 ヨハネ12:27-30 マタイ6:9 マタイ28:19,20 詩篇113 (注釈:「神に似たるものは誰か」=ミカエル=イエス) *神の御名は創造の初めからずっと崇拜の中心であった。この御名はサタン一番の攻撃目的であったから、旧世界がこの御名を殆ど忘れてきた。*

彼らはイオウオの言葉を軽んじる者に向かって絶えず、『あなたがたは平安を得る』と言い、また自分の強情な心にしたがって歩むすべての人に向かって、『あなたがたに災はこない』と言う。…偽りを預言する預言者たちの心に、いつまで偽りがあるのであるか。彼らはその心の欺きを預言する。彼らはその先祖がバアルに従ってわが名を忘れたように、互に夢を語って、わたしの民にわが名を忘れさせようとする。

すべてイオウオの名を呼ぶ者は救われる。それはイオウオが言われたように、シオンの山とエルサレムとに、のがれる者があるからである。その残った者のうちに、イオウオのお召しになる者がある。

そのとき、イオウオの名を呼び求める者は、みな救われるであろう』。

なぜなら、「イオウオの御名を呼び求める者は、すべて救われる」とあるからである。

第七の御使が、ラッパを吹き鳴らした。すると、大きな声々が天に起って言った、「この世の国は、われらの主とそのキリストとの国となった。主は世々限りなく支配なさるであろう」。そして、神のみまえで座についている二十四人の長老は、ひれ伏し、神を拝して言った、「今いまし、昔いませる、全権を有する者にしてイオウオ(?) 神よ。大いなる御力をふるって支配なさったことを、感謝します。諸国民は怒り狂いましたが、あなたも怒りをあらわされました。そして、死人をさばき、あなたの僕なる預言者、聖徒、小さき者も、大いなる者も、すべて御名をおそれる者たちに報いを与え、また、地を滅ぼす子どもを滅ぼして下さる時がきました」。そして、天にある神の聖所が開けて、聖所の中に契約の箱が見えた。また、いなずまと、もろもろの声と、雷鳴と、地震とが起り、大粒の雹が降った。

今わたしは心が騒いでいる。わたしはなんと言おうか。父よ、この時からわたしをお救い下さい。しかし、わたしはこのために、この時に至ったのです。父よ、み名があがめられますように」。すると天から声があった、「わたしはすでに栄光をあらわした。そして、更にそれをあらわすであろう」。すると、そこに立っていた群衆がこれを聞いて、「雷がなったのだ」と言い、ほかの人たちは、「御使が彼に話しかけたのだ」と言った。イエスは答えて言われた、「この声があったのは、わたしのためではなく、あなたがたのためである。

だから、あなたがたはこう祈りなさい、天にいますわれらの父よ、御名があがめられますように。

それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、あなたがたに命じておいたいっさいの事を守るように教えよ。見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである」。

## 聖書の概要

イオをほめたたえよ。イオウオのしもべたちよ、ほめたたえよ。イオウオのみ名をほめたたえよ。今より、とこしえに至るまでイオウオのみ名はほむべきかな。日のいづるところから日の入るところまで、イオウオのみ名はほめたたえられる。イオウオはもろもろの国民の上に高くいらせられ、その栄光は天よりも高い。われらの神、イオウオにくらぶべき者はだれか。主は高き所に座し、遠く天と地とを見おろされる。主は貧しい者をちりからあげ、乏しい者をあくからあげて、もろもろの君たちと共にすわらせ、その民の君たちと共にすわらせられる。また子を産まぬ女に家庭を与え、多くの子供たちの喜ばしい母とされる。イオをほめたたえよ。

**イエスの死の役割** ヨハネ12:12-19 ヨハネ16:33 ヨハネ17:1-26 ヨハネ18:35-38 ヨハネ19:5-12,17-18,30 ヨハネ10:24,25 マタイ26:63,64 父イオウオとその息子イエスの愛は極めて深く、死に至るまで愛し続ける心を持っている事こそがメシア・イエスによるの救いを可能とした。その愛を招こう！

その翌日、祭にきていた大ぜいの群衆は、イエスがエルサレムにこられると聞いて、しゅろの枝を手にとり、迎えに出て行った。そして叫んだ、「ホサナ、イオウオの御名によってきたる者に祝福あれ、イスラエルの王に」。イエスは、ろばの子を見つけて、その上に乗られた。それは「シオンの娘よ、恐れるな。見よ、あなたの王がろばの子に乗っておいでになる」と書いてあるとおりであった。弟子たちは初めにはこのことを悟らなかったが、イエスが栄光を受けられた時に、このことがイエスについて書かれてあり、またそのおりに、人々がイエスに対してしたのだということ、思い起した。また、イエスがラザロを墓から呼び出して、死人の中からよみがえらせたとき、イエスと一緒にいた群衆が、そのあかしをした。群衆がイエスを迎えに出たのは、イエスがこのようなしるしを行われたことを、聞いていたからである。そこで、パリサイ人たちは互に言った、「何をしてもむだだった。世をあげて彼のあとを追って行ったではないか」。

これらのことをあなたがたに話したのは、わたしにあって平安を得るためである。あなたがたは、この世ではなやみがある。しかし、勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている」。

これらのことを語り終えると、イエスは天を見あげて言われた、「父よ、時がきました。あなたの子があなたの栄光をあらわすように、子の栄光をあらわして下さい。あなたは、子に賜ったすべての者に、永遠の命を授けさせるため、万民を支配する権威を子にお与えになったのですから。永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることあります。わたしは、わたしにさせるためにお授けになったわざをなし遂げて、地上であなたの栄光をあらわしました。父よ、世が造られる前に、わたしがみそばで持っていた栄光で、今み前にわたしを輝かせて下さい。わたしは、あなたが世から選んでわたしに賜った人々に、み名をあらわしました。彼らはあなたのものでありましたが、わたしに下さいました。そして、彼らはあなたの言葉を守りました。いま彼らは、わたしに賜ったものはすべて、あなたから出たものであることを知りました。なぜなら、わたしはあなたからいただいた言葉を彼らに与え、そして彼らはそれを受け、わたしがあなたから出たものであることをほんとうに知り、また、あなたがわたしをつかわされたことを信じるに至ったからです。わたしは彼らのためにお願いします。わたしがお願いするのは、この世のためではなく、あなたがわたしに賜った者たちのためです。彼らはあなたのものであります。わたしのものは皆あなたのもので、あなたのもものはわたしのものです。そして、わたしは彼らによって栄光を受けました。わたしはもうこの世にはいなくなりますが、彼らはこの世に残っており、わたしはみもとに参ります。聖なる父よ、わたしに賜った御名によって彼らを守って下さい。それはわたしたちが一つであるように、彼らも一つになるためであります。わたしが彼らと一緒にいた間は、あなたからいただいた御名によって彼らを守り、また保護してまいりました。彼らのうち、だれも滅びず、ただ滅びの子だけが滅びました。それは聖書が成就するためでした。今わたしはみもとに参ります。そして世にいる間にこれらのことを語るの、わたしの喜びが彼らのうちに満ちあふれるためであります。わたしは彼らに御言を与えましたが、世は彼らを憎みました。わたしが世のものでないように、彼らも世のものではないからです。わたしがお願いするのは、彼らを世から取り去ることではなく、彼らを悪しき者から守って下さることあります。わたしが世のものでないように、彼らも世のものではありません。真理によって彼らを聖別して下さい。あなたの御言は真理であります。あなたがわたしを世につかわされたように、わたしも彼らを世につかわしました。また彼らが真理によって聖別されるように、彼らのためわたし自身を聖別いたします。わたしは彼らのためばかりではなく、彼らの言葉を聞いてわたしを信じている人々のためにも、お願いいたします。父よ、それは、あなたがわたしのうちにおられ、わたしがあなたのうちにいるように、みんなの者が一つとなるためであります。すなわち、彼らをもわたしたちのうちにおらせるためであり、それによって、あなたがわたしをおつかわしになったことを、世が信じるようになるためであります。わたしは、あなたからいただいた栄光を彼らにも与えました。それは、わたしたちが一つであるように、彼らも一つになるためであります。わたしが彼らに、あなたがわたしにいますのは、彼らが完全の一つとなるためであり、また、あなたがわたしをつかわし、わたしを愛されたように、彼らをお愛しになったことを、世が知るためであります。父よ、あなたがわたしに賜った人々が、わたしのいる所に一緒にいるようにして下さい。天地が造られる前からわたしを愛して下

## 聖書の概要

さて、わたしに賜った栄光を、彼らに見させて下さい。正しい父よ、この世はあなたを知っていません。しかし、わたしはあなたを知り、また彼らも、あなたがわたしをおつかわしになったことを知っています。そしてわたしは彼らに御名を知らせました。またこれからも知らせましょう。それは、あなたがわたしを愛して下さったその愛が彼らのうちにあり、またわたしも彼らのうちにおるためであります」。

ピラトは答えた、「わたしはユダヤ人なのか。あなたの同族や祭司長たちが、あなたをわたしに引き渡したのだ。あなたは、いったい、何をしたのか」。イエスは答えられた、「わたしの国はこの世のものではない。もしわたしの国がこの世のものであれば、わたしに従っている者たちは、わたしをユダヤ人に渡さないように戦ったであろう。しかし事実、わたしの国はこの世のものではない」。そこでピラトはイエスに言った、「それでは、あなたは王なのだな」。イエスは答えられた、「あなたの言うとおり、わたしは王である。わたしは真理についてあかしをするために生れ、また、そのためにこの世にきたのである。だれでも真理につく者は、わたしの声に耳を傾ける」。ピラトはイエスに言った、「真理とは何か」。こう言って、彼はまたユダヤ人の所に出て行き、彼らに言った、「わたしには、この人になんの罪も見いだせない」。

イエスはいばらの冠をかぶり、紫の上着を着たままで外へ出られると、ピラトは彼らに言った、「見よ、この人だ」。祭司長たちや下役どもはイエスを見ると、叫んで「棒杭につけよ、棒杭につけよ」と言った。ピラトは彼らに言った、「あなたがたが、この人を引き取って棒杭につけるがよい。わたしは、彼にはなんの罪も見いだせない」。ユダヤ人たちは彼に答えた、「わたしたちには律法があります。その律法によれば、彼は自分を神の子としたのだから、死罪に当る者です」。ピラトがこの言葉を聞いたとき、ますますおそれ、もう一度官邸にはいってイエスに言った、「あなたは、もともと、どこからきたのか」。しかし、イエスはなんの答もなさらなかった。そこでピラトは言った、「何も答えないのか。わたしには、あなたを許す権威があり、また棒杭につける権威があることを、知らないのか」。イエスは答えられた、「あなたは、上から賜わるのでなければ、わたしに対してなんの権威もない。だから、わたしをあなたに引き渡した者の罪は、もっと大きい」。これを聞いて、ピラトはイエスを許そうと努めた。しかしユダヤ人たちが叫んで言った、「もしこの人を許したなら、あなたはカイザルの味方ではありません。自分を王とするものはすべて、カイザルにそむく者です」。…イエスはみずから棒杭を背負って、されこうべ（ヘブル語ではゴルゴダ）という場所に出て行かれた。彼らはそこで、イエスを棒杭につけた。イエスをまん中にして、ほかのふたりの者を両側に、イエスと一緒に棒杭につけた。…すると、イエスはそのぶどう酒を受けて、「すべてが終った」と言われ、首をたれて息をひきとられた。

するとユダヤ人たちが、イエスを取り囲んで言った、「いつまでわたしたちを不安のままにしておくのか。あなたがキリストであるなら、そうとはっきり言っていただきたい」。イエスは彼らに答えられた、「わたしは話したのだが、あなたがたは信じようとしなさい。わたしの父の名によってしているすべてのわざが、わたしのことをあかししている」。

しかし、イエスは黙っておられた。そこで大祭司は言った、「あなたは神の子キリストなのかどうか、生ける神に誓ってわれわれに答えよ」。イエスは彼に言われた、「あなたの言うとおりである。しかし、わたしは言うておく。あなたがたは、間もなく、人の子が力ある者の右に座し、天の雲に乗って来るのを見るであろう」。

### キリスト教への攻撃（不完全な一覧）：

マニ教、三位一体の教え（反キリスト）、迫害、イスラム教、聖書の失踪、神の御名の失踪、ダーウィン説、無神論、共産主義、法王権、組織化された宗教、大いなるバビロン（すべての宗教的な組織と団体を意味している）、宗派の成形、神の偽りの名（主、エホバ、ヤハウェ、イエウエ）、十字架と聖人肖像を使った偶像崇拜、など。

### **締め言葉** 黙示録10:5-7 ルカ21:28 もはや遅延がない

それから、海と地の上に立っているのをわたしが見たあの御使は、天にむけて右手を上げ、天とその中にあるもの、地とその中にあるもの、海とその中にあるものを造り、世々限りなく生きておられるかたをさして誓った、「もう時がない。第七の御使が吹き鳴らすラッパの音がする時には、神がその僕、預言者たちにお告げになったとおり、神の奥義は成就される」。

これらの事が起りはじめたら、身を起し頭をもたげなさい。あなたがたの救が近づいているのだから」。

原典：口語訳聖書。神の御名を「イオウオ」で直した。「十字架」、「十字架につける」、「全能者」と言う違った表現も直した。自分の修正が試験的で、結果のテキストはまだ正当でない。

## 聖書の概要

まだ説明していない名前と表現の意味:

イオウオ = 「彼は存在している」、「彼は存在そのものである」

アダム = 「人」、「赤っぽい」、「土で出来た」

エバ/イヴ = 「生命を与えている者」

男 = AIJ (発音: アイジュ); 「女」はそれから由来している

女 = AJO (発音: アショウ); 「男からとった者」

アベル = 「むなしく」

カイン = 「固くたっている」、「選ばれた者」

イサク = 「笑い」

エサウ = 「粗い (= 毛深い)」

ヤコブ = 「かかとを掴んでいる者」

ラケル = 「子羊」

レア = 「勤勉」、「愚かな」

イスラエル = 「神の勝者」 (注釈: 祝福の為に神と格闘した)

ハガル = 「逃避」

イシュマエル = 「神は聞きいれる」

サラ = 「高貴な女性」

モリヤ = 「イオウオの苦さ (= 辛辣さ)」

(エルサレムにある神殿の丘の名前)

安息日 = 「七日目」、「休み」、「祝い」、「休憩日」

(JBIEI、発音: シェビエイ、七つ目)

聖なる = QDJ (発音: クエデシュ、カデシュ市を比較せよ)

「分離せられた」、「他から離れた」

モーセ/モーゼ = MJO (発音: メジョー); 「水からひきあげた」 (逆読み: OJM、発音: オシエム、「御名」)

イエス = 「イオウオは救い」

ハルマゲドン = ORMGDN (オル・メゲデン)、メギドの山

(メギドには山がないから、霊的な意味で分かる)

メギド市から少し離れていて、東側と西側に二つの山がある: ターボル山 (火山) とカルメル山列 (葡萄園の意味)